

読むミルク



ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

能登を代表するお祭りで七尾の「石崎奉燈祭り」に行ってきました！

漁師町だけあって、重さ2トンもある奉燈を、100人近くの男衆がねじり鉢巻で威勢よく練り歩く姿は勇壮で興奮します。この夜は6基の奉燈に灯りがともされ、障子に描かれた書や絵が浮かび上がり、幻想的な雰囲気にとっても魅惑されました。

この日、石崎の方々は玄関を開け放し、訪れるお客さんに食事やお酒を振舞います。午後6時過ぎから夜遅くまで、入れ替わり立ち代り何十人ものお客さんが来られるそうです。私も招待してくれた知人の計らいで、2軒の家に呼んでいただきました。

もあるのです。何といっても、家の方々の温かいもてなしがとても心地よく、ひ孫からおじいちゃん、おばあちゃんまでそろった大家族の一員になったような気持ちに浸りました。

た！高さ12メートル、重さ20トンの日本一巨大なか山3台が、七尾市街の町並みぎりぎりに曳き回される様相は、大げさかもしれません。震えるくらいに感動でした。

なか山は見るだけではなく、見学者が綱を持ち、曳山を引っ張るメンバーに気軽に参加できるのが魅力です。これですらにお祭りへの参加意識がわき、気持ちがあぐぐと盛り上がりました。2つのお祭りは、男衆がとても粹に見え、見学者や建物ギリギリにせまり来る曳山や奉燈は言葉に表せないくらいスリリングです。

心揺さぶる七尾のお祭り

漁師町らしく、大きなテーブルには取れたてのシャコやワタリガニをそのままゆでたものや刺身が所狭しと並び、目も舌も充分に堪能しました。家自体も、この祭りのために作られたのではないかと思えるほど大きな玄関と座敷、台所があり、トイレも男女用にとつ

りませんでした。私が育った金沢は百万石行列くらいしかなく、町の人たちが熱気に包まれるような祭りを知らなかったことが要因だと思えます。

ところが、今年5月、七尾の知人に青柏祭(通称でか山)にご招待いただき、初めてお祭りに目覚めまし

「百聞は一見にしかず」です。七尾のお祭りに行くと曳山の綱を引いたり、「サツカサイ、サカサツサイ、イヤサカサー」と掛け声を出してみませんか。絶対にオススメです！